

S L 検修庫の概要

(1) 検修庫設置の経緯

国鉄時代から、S L の解体検査（全般・中間検査）は旧鷹取工場で実施をしてまいりましたが、阪神淡路大震災後に鷹取工場を網干総合車両所へ移転したことに伴い、S L 検修業務を梅小路運転区へ移管を致しました。しかしながら、梅小路運転区はもともと解体検査よりも軽微な検査（仕業・交番検査）を施工していた箇所であったため、設備面での増強が必要となっていた一方で、重要文化財に指定されている扇形車庫の設備更新や大規模修繕は困難でした。そこで今回、S L の解体検査に特化した専用検修庫を設置することとなりました。

(2) S L 検修庫設備概要

建築面積：869.25㎡

延床面積：984.16㎡（検修場面積 765.00㎡）

階 数：2階建

主な設備：ボイラー検修設備、天井クレーン 等

実施検査：中間検査A、中間検査B、全般検査などの解体検査

